

耳石解析による2019年生まれアユのふ化日組成

久米弘人

1. 目的

アユのふ化時期の早晩は、アユのその後の成長および漁獲状況に関係することが知られている。そこで今後の漁況予報の参考とする目的で、ヒウオ生息状況調査で採捕した2019年生まれのアユのふ化日組成図を作成し、ふ化時期の特徴の把握を試みた。

2. 方法

耳石解析に用いたヒウオは、9月30日から12月10日にかけて船木崎から当场にかけての4水域(図1の実線部分)で、ヒウオ生息状況調査と同様の手法で採捕した。曳網水深は各水域8mと中央付近の2水域では水深8mに加え、水深16mでも実施した。採捕したヒウオのうち1地点65尾を上限に全1131個体から耳石を摘出し、耳石解析装置(ARP/W+RI:ラトックシステムエンジニアリング社製)を用いて日輪数(図2)を計数することでふ化日を求めた。65尾以上採捕された地点はそのふ

化日を全採捕尾数に補正し、ふ化日組成図を作成した。

3. 結果

ヒウオ曳調査では9月8日から11月11日ふ化したヒウオが採捕された。2019年生まれのアユのふ化日のピークは9月下旬から10月上旬となったが、9月中旬、10月中旬、10月下旬にもまとまったふ化が確認された(図3)。



図1 サンプルング水域図 図2 アユ耳石頭顕微鏡写真

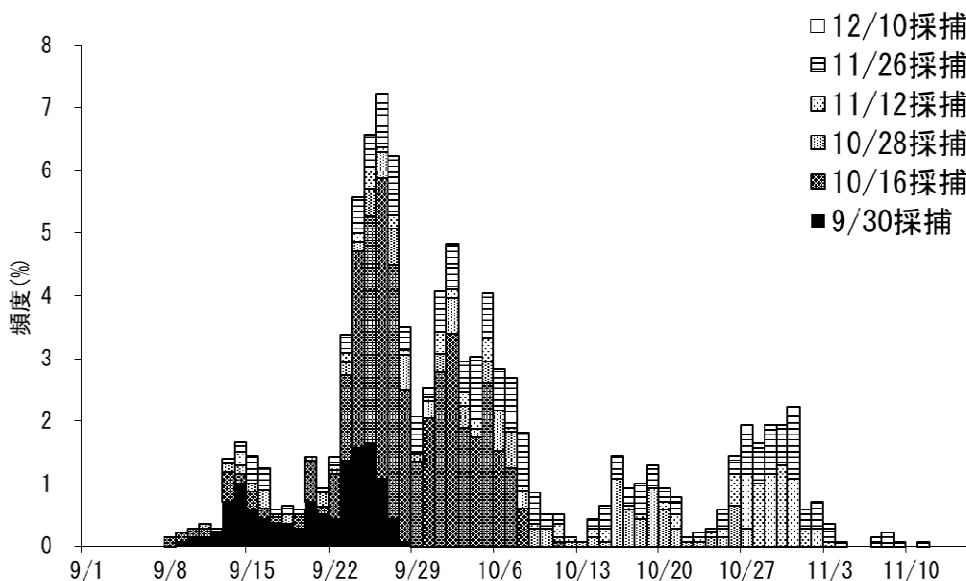


図3 2019年生まれアユのふ化日組成図